時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり　時事新報には每號詳細なる商況物價の報告あり

時事新報

明治廿八年二月十六日 土曜日
舊曆乙未正月廿二日（甲、午）
日出午前六時二十九分　日入午後五時二十二分
月出午後……　月入午前九時五十七分
滿潮午前九時五十分　午後十時十分
（西曆一千八百九十五年）　年始より四十七日　年末まで三百十八日

時事新報定價

時事新報は每號八面乃至十二面にして詳細なる商況物價の報告あり其代價は左の如し

時事新報定價（府外遞送には此他後に掲ぐる遞送料を要す）

一號　貳錢五厘○一箇月　前金五十錢○三箇月　前金壹圓四拾五錢○六箇月　前金貳圓八拾五錢○一箇年　前金五圓六拾錢○月曜日休刊（此他大祭祝日年始年末一切休刊せず）

●前金　一旦受取りたる前金は凡て還貨を以て返戻する事なく新聞紙代の前金は新聞紙を以て又廣告料の前金は廣告を以て勘定する事と御承知被下度候

時事新報遞送料

一　日本國內並に朝鮮國京城、仁川、釜山、元山津　一箇月　金拾三錢
二　南亞米利加、中央亞米利加、米國若くは加奈陀を經て郵送する歐洲各國　一箇月　金六拾錢
三　北米合衆國、英領加奈陀、布哇諸島　一箇月　金三拾錢
四　香港を經て郵送する亞細亞諸港、太平洋諸嶋、濠洲　一箇月　金六拾五錢
五　露領浦鹽斯德、清國諸港　一箇月　金三拾五錢

時事新報廣告料（前金）

一行五號活字廿四字詰	一日限	六日迄（二日以上）	七日以上
一行に付	十三錢	十一錢	十錢五厘

●●●廣告料定價　時事新報の廣告料は都て定價の通り申受くる筈なれども取次人の內には往々定價以下にて引受くる者ある由今後斯る事實を發見する時は直ちに其取次人に對し本社廣告の取次を謝絶する事もあるべき旨に付豫め廣告依賴者諸君に公告す

本社へ寄稿に付

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を塡塞するより各社同一の記事を掲ぐるみと尠からず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て新聞の社に通信を依賴せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も尠からざれば本社に記事論說を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんみとを請ふ

時事新報社に送したる投書の原稿は凡て寄稿者に返戻せず又本社に保存せず

時事新報

支那には敗算もなし

戰爭は大事なり此大事を決行せんとするに當りては先づ籌策なかる可らず之を算するの法は實事の原則に從ひ敵我の彊弱、兵の多少、時の遲速を第一に量り又內外百般の事情に照して彼我の形勢を比較し假令ひ自から恃む所あるの利ありとするも濫に屈を百方に馳せて未來の變化を豫想し一々之れに應ずるの工風を審へ兼て屈撓の及ばざる場合に備ふるの地歩を造らざる可らざるのみならず戰局の機には如何なる經理の方針を執る可きや等畢竟に念を推して萬々遺漏なきみを期して勝算と云ふものなれ勝敗は兵家の常とは干戈相接しての以上にして戰術の大計畫は始めて重ならざる可らず甲州流に兵法は國法なりと示す所以も即ち此旨に外ならざるを知る可し然るに彼の支那が我國に對して戰を挑むに當り果して勝算ありしや如何と尋るに曾て之なきのみか奇謀を用ふれば敗算も亦なきものと云て可なり初め朝鮮事變の起るや支那が乘じて以て多年の慾望を逞ふし我勢力を挫かんと試みたるよりして遂に戰爭の發端と爲り當時天兵一たび大旆を動かさば倭奴恐懼爲す所を知らざる可し云々とて烟の如く霧の如く朦朧たる胸中の妄想みそ奮發の發機にして其間に毫も學理上の計畫を許さず力と云ひ數と云ひ時と云ふが如きは渾て心頭に浮まざる上に種々の事情變化等に至ては更に思設けざる所にして極めて綿密なる可き筈のものを極めて簡單に決したる天下無類の勝算に過ぎざりしは事の實迹に徵して疑を容る可らず先づ豐島、牙山の一戰にても少しく敏捷なる者は大に悟る所ある可しと思ひの外喧漠然として平壤に新兵を增し敗卒を集めなどして金城湯池大磐石と賴み居りしに何ぞ圖らん僅二日ならざるに掃蕩せられて戰運既に清軍を去りたりとは萬人の認むる所なるにも拘はらず猶は我軍を九連城に遏めて遏むるみと能はず鳳凰城に支へて支ふるみと能はず宗廟の所在地たる奉天府の安危も殆んど旦夕に迫るを雖も曾て戰況をだに知らざるもの丶如く殊に黃海の海戰に於て其手足を傷つけられ所詮叶はざるを認めながら口は飽までも達者にして罵詈雜言の聲を絶たず既にして我第二軍が何の苦もなく金州に上陸して堅固無双と聞えたる旅順口を一擧に陷いれたるが如きは正しく咽喉を押え付けたると同樣にして全く死命を制せられたれども之に處するの決心は頗る緩慢遲鈍にして恰も危急を危急とせざるが如く前にはデトリングの如き路傍の一閑人を賴みて我軍の手を弛めんと企だて後には張蔭桓等を遣はして漠然和睦を議せんと試むるなど恬として自家の境遇如何を顧みざる其趣は決して胸中に豫算ある者の爲す可き所にあらず今や威海衛の略取と共に北洋艦隊も亦滅亡したる上は支那帝國は殆んど無能無力の動物に等しく之と戰ふは唯みれを追ふのみにして最早や戰爭として見る可らざるや明白なるに彼れ將た如何に今後に處置せんとするや抑も北洋艦隊の滅亡は陸上の砲臺を略取せられたるの時に於て既に決定したるにはあらで遠く黃海の海戰に於て了知するに足る可く威海衛の略取せらる可きは我軍の上陸を俟たずして既に旅順口淪落の日に知られ又斯く咽喉を押えらるべしとは疾に屢々その手足を痛擊せられたるの時に於て早く覺悟を定むるに餘りあるみとなれば苟も敗算ある者ならば決して此慘狀に陷いるみとなかる可きは勿論今日は既に時機に後れたるにせよ猶は命脈の存する限りは速に死を免るゝの手段みそ講ず可しと雖も其政府を喩ふれば猶は脫疽患者の如きものにして病の初めて足端に發したる時に於ては早く之を截斷して無事を謀る可きに愚昧の慾しさ等閑に付して遂に蔓延せしめ指一本にて濟む可きものを下脚に至ても切ると能はず全脚に至るも猶決せずして空しく死を待つものに似たり如斯して見れば後は我軍の向ふ所縱橫自在にして豫て期したる如く北京城下の盟をなさしむるも亦遠きに非ざる可き歟なれども前記の如く腐敗混亂を極めて勝算は愚か敗算もなき支那政府にては其膽玉を挫かれても猶ほ活けるが如く死せるが如くにして最下等動物と同樣荷も打擊を加へられざる部分は時々蠕動して生色を呈し結局四百餘州の山河草木を割裂せざる限りは埓明かざるか或は一旦城下の盟をなさしめても之を實行するに當りては迚も約束の常規に從ふ可らずして猶は旅人を對手に貸金の返濟を催促するが如く止むを得ず強制執行に及ばんとするも家內の財產は主人の所有なるや隣家の物品なるやも分らずして殆んど手の付け樣もなき怪絶呆絶の狀態を見るみとあらんも知る可らず實に言語に名狀す可らざる次第にして我國人は今後宜しく支那を品するに朝鮮よりも更に甚だしきものあるを覺悟して之に處するの成算を算せざる可らず我輩は事前に當り日本と支那との彊弱、優劣に付て窃に豫測する所ありしかども斯迄に懸隔ある可しとは聊か豫測の外に出でたる所にして蓋し我勝算中の一奕ならんと自から一笑を催ほす者なり

雜報

○府縣域變更法案（橋本省吾氏提出）

第一條　東京府及び千葉縣の境域を江戶川中央と定む
第二條　法律を以て組織したる議會議員の撰擧權及び被撰擧權資格中其の年限に關するものは本法に依れる府縣域變更の爲に繼て中斷せられざるものとす
第三條　此法律は明治二十八年四月一日より施行す

理　由

東京府千葉縣の境界は從來江戶川の兩岸に跨り互に飛地あるを以て地方行政上幷に學制普及上大に不便不利を敵するのみならず治水上亦實效を奏するみと能はざるに付本案を提出したる所以なり

○東京市會

は一昨日午後五時より開會し三浦府知事、前會の決議に從て番外に出席す議長は第六號案（東京市水道明治二十八年度歲入出總計豫算）の二讀會を開く旨を宣告せしに宮武南海氏より議長指名にて五名の特別委員に附托し調查すべしとの說を提出せしに多數の贊成ありて可決し議長は該委員を追て指名し書面を以て報告すべしと宣告し第八號案（東京市墓地明治二十八年度歲入出總計豫算）を簡易法により議題とせしに異議なく原案に確定し續て第九號（東京市養育院明治二十八年度歲入出豫算）第十號（東京市基本財產河岸地明治二十八年度歲入出總計豫算）の各議案は何れも讀會を省略し直ちに原案に可決確定し散會せしは同六時頃なりしと

○東京市會の休會

連日開會中なりし東京市會は一昨十四日限り當分休會するよし

○佐野赤十字社長

は來る二十五日より廣嶋に開會する日本赤十字社全國支部委員部の役員會議の時日接近せしに付き隨行員と共に來る二十日頃出發し途中京都博覽會へ出品すべき戰時遞動病院建設場所取極めを爲し夫れより廣嶋へ赴くよし會場は多分廣嶋縣會議事堂となるべく開會日數は一週間の豫定なりと

○陣中の慈心

我軍隊の紀律嚴粛にして秋毫犯さゞるのみならず良民の不幸を憫んで厚く懇撫するより占領地の人民は深く德として我軍を優遇する由每度報道に接する事なるが猛く敵國の孤兒を見て坐に……を贈りて故國の貧兒を救……服する誠に依り左に其……

一金七圓也

右は些少愧入候得共陣……有樣を目擊して坐ろに……附して以て聊か陣中の……被下候得ば本懷の至に……御掲示無之樣奉願上候……

明治廿八年一月十六日
籠田會育兒院御中

○傷病兵の入院總數

……の從軍兵卒の傷病者及び……六百七十三人、第一分院に……百三十六人、第三分院に百……地治療所に四十四人合計……

○第四回內國勸業博……

……迫し來りたるに付き昨今……員の如きは事務所を開きて……四五縣は已に到着せり又……けて其共同賣店をなし各……が出品物は本月より來月……て同日頃より陳列に着手……

○紀念祭參拜章

本年……桓武天皇、平安遷都紀念……各地參拜者の便を計り……き各鐵道會社、汽船會社……する者に限り多きは五割……すみとゝし何人に限らず……濟するみとに定めたる由なれ……方の勝地靈跡を巡拜せん……なるべしと云ふ

○鐵製の大額面

本……住み金屬の彫刻師にて有名……に開設する第四回勸業大……品せんと思立ちしは一昨……り之に着手したり右は總……七寸厚さ一分餘量目十三……の打寄する巖頭に龍の蟠居……彫刻の地金と爲すもの鍛……と名家の作世に傳はるは……大のものは鍛錬すべき器……を地金とは爲したり然るに……鍛錬鐵の代用を爲さしむる……十二月に至り過半成功せし……生じ八箇月の苦心を畫餅……を避らし同年同月更に着手……び讀れを生じ一時は鐵鍛を……覽會へは斷然……と爲り着……力を失ふ……念と思ふ新……[illegible]……不辭……